日本福祉のまちづくり学会　学術研究委員会　公開研究会
「音の情報保障をヒト側・環境側が担保するには」

【目的・意義】

2025 年 11 月の東京 2025 デフリンピック開催で、聞こえの障害に関して世間一般の認知度は高まりつつある。本公開研究会は、音環境や情報保障の構築に向け、ヒト側・環境側双方の視点で議論し学びを深めることを目的とする。

音は空気の振動の粗密波（縦波）の合成波で、大気圏で暮らす私たちはこの空気の振動を手掛かりに 20～20,000Hz の音を聞き分け、様々な情報を得て暮らしている。鼓膜に伝わった音波は、電気信号に置き換えられ、神経を通じて側頭葉に伝えられ、ここからさらに脳の様々な場所に伝播し、初めて私たちは音情報を理解する。音の伝わりのいずれかの過程で障害されると聞こえの問題が顕在化する。さらに音声言語の理解は、より高次で複雑・繊細な脳のはたらきが必要となる。全国で聴覚障害者は約 30 万人とも推定されるが、一言で聴覚障害といってもその程度もさまざまである。また、誰しも高齢になれば耳が遠くなる。母語話者ではない状況になれば音声言語の理解は難しい。音にまつわる問題は実に裾野が広い。

これまで福祉のまちづくり・UD の観点からの聞こえを扱った論考や発信は、多くはなかった。音は目に見えず、問題意識を十分に共有できなかったことが一因と思われる。しかし、音の情報保障は、例えば、震災時、防災行政無線が聞こえなかったことによる避難の遅れは人命に直結する問題でもあり、決して見過ごすことはできない。音の情報保障の対応には、音そのものを聞きやすくことや視覚情報など他の方法に置き換えることなど、その程度に応じた多元的なアプローチを施すことで、取りこぼしの無い施策を構築していく必要がある。

【研究会概要】

・研究会日程：2月8日（日）13:00～15:10
・場所： 5005（ごーまるまるごー）　https://5005place.com/
　東京都台東区谷中 3 丁目 24－1 野口ビル1A　西日暮里駅から徒歩 5 分
　※トイレは会場内に一般ブース（男女共用）が1つのみとなります。
・対面形式のみ（手話通訳あり）
・参加予定人数：定員 30 名（先着順）
　※申し込みをされた方々には、追って受付の可否をご連絡します。
・参加費：無料

※本研究会は、科学研究費補助金（24K01055,基盤（B）:情報のアクセシビリティに困難がある児童生徒のインクルーシブ教育環境の国際比較,研究代表：菅原麻衣子）の研究活動の一部を含みます。

申し込み方法：下記 URL の Google form よりお申し込みください。Google form でのお申し込みが難しい方は、問合せ先の谷本裕香子（yutanimoto@tohtech.ac.jp）

までメールにてご連絡ください。

【Google form】https://forms.gle/QEre962pRfrQRDhQ9

受付の可否：開催日の 3 日前までには受付した旨のメールを配信させていただきます。万一届かないなどトラブルがありました場合は下記の問い合わせ先までご連絡ください。

参加保障：参加保障のご要望がありましたら1月23日(金)までに下記の問い合わせ先までお申し出ください。

申込み〆切：1 月 30 日(金)17 時まで

問い合わせ先： yutanimoto@tohtech.ac.jp 谷本裕香子（東北工業大学）

【プログラム】

司会： 徳田 良英（日本福祉のまちづくり学会学術研究委員・帝京平成大学）

主旨説明：菅原麻衣子（日本福祉のまちづくり学会学術研究委員長・東洋大学）（5 分）

1.「聴こえの障害と補聴環境の整備」（約 45 分）

講師： 黒田 生子（言語聴覚士、帝京平成大学教授）

聴覚障害に関するリハビリテーションの専門家

まず、聞こえに関するヒト側の問題について共通理解を得るため、聴覚障害について概説をしていただく。

2.「ろう者の身体と Deaf Space Design（デフ スペース デザイン）」（約 45 分）

講師：福島 愛未（Deaf Space Design 研究者）

筑波技術大学建築系コース卒で Deaf Space Design 研究者で、さまざまな発信している。福島氏のご経験をご紹介いただきながら、ろう者のもつ感覚や文化をいかした空間デザインについて、環境側の立場でお話しいただく。

3. 5005 施設案内 （約 10 分）

研究会会場である 5005 は、ろう者の身体感覚、ろう文化、手話をもとにデザインされた空間であり、講師の福島さんより解説いただく。

4. 質疑応答 （約 15 分）

5. まとめ： 吉田 樹（日本福祉のまちづくり学会学術研究委員・福島大学／前橋工科大学）